

明治期以降曹洞宗人物誌（六）

川口 高風

はじめに

本稿は「愛知学院大学教養部紀要」第六十一巻第四号（平成二十六年三月）に所収の拙稿「明治期以降曹洞宗人物誌（五）」の続編である。全項の人物誌が完成した時は『近代曹洞宗人名辞典』と題して刊行する予定で、一日も早い完成をめざし精進している。

凡例

〔見出し項目〕

- 一、収録人物は明治期以降の顕著な業績を残した人物で、その出典は「明教新誌」「宗報」「曹洞宗報」を中心に、明治期に刊行された各種雑誌や著作などから採取した。
- 二、見出しの人名は当時用いた旧漢字とした。事歴の本文は新字体を用いたが、旧字体を使用したものもある。
- 三、見出しの項目はかな見出しを太字で示し、次に漢字を掲げた。

- 四、かな見出し項目は姓と名の間にダッシュを挿入して読みやすくした。

〔見出し項目の配列〕

- 一、配列は五十音順の予定であったが、「い」以降は完成した原稿の順序とした。そのため本稿では「せ」「つ」「も」の項をとりあげた。
- 二、同音同字の漢字項目は時代順（没年順）に配列した。
- 三、同音異字の漢字項目は第一字目の画数の少ないものからの順とした。また、第一字目が同画数の時は第二字以降の画数の少ないものから配列した。

〔本文の記述とその順序〕

- 一、本文の記述は敬語、敬称の使用を避けた。
- 二、収録にあたっては居住地、号、字、生年月日、父母、誕生地、受業師、本師、学歴、僧堂安居歴、宗門役職歴、社会的職歴、著作類、示寂（没）年月日、行年、参考文献の順とした。不明な場合は記していない。
- 三、本文は基本的に、編著者が直接、居住地へ問い合わせを行った返書（調査用紙）にもとづいて執筆した。それ以外に参考とした文献は末尾に掲げた。
- 四、伝記中の元号の一番最初（初出）に西暦を入れた。ただし、伝記中の生没年には西暦を入れない。
- 五、寺院の所在地が郡の場合は県を入れ、市の場合は県を省略した。なお、平成の大合併による新市町村名への変更を行っていないものもある。
- 六、居住地は歴住の順序通りでないものもあり、何世か不明な場合は記していない。

せ

せおーせいかん 瀬尾清閑

文久二年(一八六二)ー昭和二十年(一九四五)

庄原市千手寺二十四世、庄原市正安寺十四世、庄原市太山寺法地開闢開山。号は大心。文久二年に広島県芦品郡府中町の瀬尾國太郎の子に生まれる。受業師、本師は國枝太雲。東京駒込の吉祥寺梅檀林に学び、瑞応寺僧堂に安居する。尾道市天寧寺曹洞宗専門支校講師、広島県第二曹洞宗務所長を務め、昭和二十年十月一日に八十四歳で示寂した。(『千手寺誌』)

せがわーがんゆう 瀬川岩雄

明治四十二年(一九〇九)ー平成二年(一九九〇)

岩手県紫波郡長岩寺。明治四十二年二月二十一日に岩手県紫波郡紫波町に生まれる。曹洞宗専門僧堂本科研究科六ヶ年を修了し、曹洞宗専門僧堂講師を二十年間務め

る。管内布教師三十一年、教区長十三年、

岩手県宗務所長二十年、東北福祉大学評議員十六年、その他、東北管区長、岩手県布教委員長、みちのく緑陰禅の集い会長などを歴任する。古館村議会議長、村長、紫波町建設課長、同町議会議員、同観光協会長、同町史編纂委員長、奥羽史談会理事、紫波郡支部長などを歴任し、五十年にわたり現職研修会、寺族研修会、布教協議会などの各講師、授戒会説教及説戒師を務めた。平成二年一月十三日に示寂した。(『昭和名僧録』)

せがわーこほう 瀬川古峰

明治六年(一八七三)ー大正十五年(一九二六)

花巻市松山寺二十二世、花巻市瑞興寺三十四世、花巻市宝昌寺十八世、花巻市地藏寺。号は南涯。明治六年十二月六日に岩手県稗貫郡湯本村に生まれる。受業師は四戸久天、本師は岡田吾竈。西有穆山に参随する。明治十九年(一八八六)二月十五日に瑞興寺の四戸久天の弟子となり、二十年に

は曹洞宗岩手県専門支校に掛錫し、後に曹洞宗大学林を卒業する。二十五年に總持寺

に掛錫し、西有穆山に随侍した。三十三年三月に岩手県寺院總代、その後、組長、本山勸募布教師、岩手県保護院地方教誨師、管内布教師などを務めた。四十一年には松山寺を再建する。大正元年(一九一二)には両本山布教師、三年より宗会議員を務め、十五年七月二十九日に四十九歳で示寂した。(『曹洞宗名鑑』)

せがわーごろう 瀬川午朗

明治二十八年(二八九五)ー昭和三十九年(一九六四)

釜石市石応禅寺十六世。号は雲山。明治二十八年五月六日に岩手県紫波郡紫波町の瀬川大忍の長男に生まれる。受業師、本師は菊池智賢。曹洞宗大学、東京帝国大学を卒業し、駒澤大学助教、大正大学教授を務め、昭和二年(一九二七)に明峰幼稚園を創立した。石応禅寺重興を免牘される。三十九年十一月二十日に七十歳で示寂した。

せきーがんぎゅう 関頑牛

明治二十三年(一八九〇)ー昭和十九年

(一九四四)

富山市光厳寺四十四世。福井県吉田郡吉峯寺。号は大心。明治二十三年に福井県織田町に生まれる。本師は田中仏心。駒澤大学を卒業し、昭和三年(一九二八)四月八日に光厳寺住職となり、七月には永平寺単頭となる。光厳寺に住持してからは幼稚園、僧堂、講堂を造立。後に三年ほど伊深正眼寺僧堂に安居する。昭和十八年五月に吉峰寺住持となり、永平寺後堂を務める。十九年八月十三日に五十四歳で示寂した。

せきーたいげん 関碓元

明治四十年(一九〇七)ー昭和五十六年

(一九八一)

東京都海雲寺二十九世。号は徹應。明治四十年四月五日に富山県中新川郡弓庄村大字辻村に生まれる。本師は関碓翁。昭和六年(一九三一)に日本大学文学部国文科を卒業。教区長、永平寺地方副監院、同寺別院参与、方面委員、民生委員、杉並区議会議

員、杉並仏教連合会理事などを務める。五

十六年九月二十一日に七十四歳で示寂した。

せきーだいてつ 関大徹

明治三十六年(一九〇三)ー昭和六十年

(一九八五)

富山市宝洞寺、福井県吉田郡吉峰寺、盛岡市報恩寺三十七世。号は真量。明治三十六年六月十五日に福井県丹生郡織田村の関庄次郎の二男に生まれる。受業師、本師は関頑牛。大正十四年(一九二五)に名古屋の曹洞宗第三中学林を卒業し、同年夏より小浜市の発心寺僧堂に入り原田祖岳に参禅。

昭和五年(一九三〇)に富山の光厳寺僧堂

で関頑牛の補佐を行う。その後、臨済宗の正眼寺僧堂に十年安居した。十一年に宝洞寺に首先住職、三十一年に吉峰寺に転住し、五十一年に報恩寺へ昇住した。光厳寺幼稚園長、五百石保育園長、保護司、人権擁護員、検察審査員なども務めており、六十年八月七日に八十二歳で示寂した。(『曹洞宗現勢要覧』『報恩寺概史』)

せきーとうこう 関透孝

明治二十一年(二八八八)ー昭和四十年

(一九六五)

甲斐市正授院十八世。号は祖鼎。明治二十一年九月十一日に山梨県中巨摩郡敷島町に生まれる。本師は関歌参。四十四年に曹洞宗第三中学林卒業。管内布教委員、宗務所会計、教区長、所会議員、宗務所長、山梨県仏教会評議員、同県仏教会郡支部理事、民生委員、司法保護委員、成人保護司、敷島町長などを務めた。昭和四十年二月十二日に七十八歳で示寂した。(『曹洞宗現勢要覧』)

せきーはくどう 関博道

明治二十二年(二八八九)ー昭和五十二年

(一九七七)

八千代市観音寺二十四世。号は靈峰。明治二十二年一月二十三日千葉県千葉郡大和田町高津の牧原島心の長男に生まれる。俗姓を初め牧原といったが、明治四十年に関と改姓した。受業師は松岡培壽、本師は関融禪。大正十四年三月に立教大学商学部経

済学科を卒業し、總持寺に安居して石川素童に参随する。昭和二年（一九二七）三月に千葉県立千葉中学校教諭、七年には私立明倫中学校教諭、十年に大和田青年学校指導員、二十四年から三十八年まで私立昭和学院高等部教諭を務めた。五十二年六月三十日に示寂した。（『曹洞宗現勢要覧』）

せきおかーけんいつ 関岡賢一

明治三十五年（一九〇二）―昭和五十七年（一九八二）

東京都竜沢寺三十世、東京都円沢寺。号は喝道。明治三十五年十二月二十日に福井県大野郡大野町に生まれる。受業師、本師は大迫希雄。大正九年（一九二〇）に曹洞宗第一中学校卒業、十四年に曹洞宗大学卒業。十五年五月、曹洞宗社会事業布教師に任命され、昭和二十二年（一九四七）四月には曹洞宗社会教化研究会委員、二十九年四月に曹洞宗寺院共済組合設立準備委員会委員、三十三年四月に麻布仏教会副会長、三十四年五月に布教審議会委員、三十八年八月に全日本仏教会組織専門委員に任ぜら

れた。その他に、東京都児童保護委員、茨城県社会事業主事、東京府社会事業主事、東京都事務官、東京都荒川区長、東京都民生局保護部長、児童部長、児童婦人部長、東京都選挙管理事務局長、世田谷学園評議員、日本赤十字社東京都本部次長、同社評議員、同社代議員、世田谷学園理事などにも就任し宗内外職において活躍した。五十七年五月一日に満七十九歳で示寂した。（『曹洞宗現勢要覧』）

せきかわーせきちゅう 関川石柱

戸田市妙嚴寺十九世、佐久市守芳院十七世。号は素（祖）門。長岡市桂町の関川利夫の子として誕生した。本師は鈴木正光。明治十二年（一八七九）に萱葺庫裡再建、十五年に神明宮再建、さらに「寺籍財産明細帳」を二十九年五月に作成している。

せきぐちーじぜん 関口慈禅

―昭和二年（一九二七）
熊谷市文殊寺三十四世、川口市正眼寺三十

一世、熊谷市見性院十八世。号は関網。埼玉県大里郡小原村大字野原の茂木家に生まれる。昭和二年七月三十日に五十七歳で示寂した。

せきどーげんぼう 関戸元峰

万延元年（一八六〇）―昭和十二年（一九三七）

愛西市竜音寺九世、京都府船井郡宇津木寺十一世、茨木市高雲寺十二世、大坂市法華寺十九世。号は大亨。万延元年一月二十二日に愛知県西春日井郡小牧町の船橋家に生まれる。受業師、本師は村瀬慈元。愛知専門支校を卒業後、原田良禅、久我環溪に隨身する。臨済宗の南禅寺、圓福寺、浄土宗の勝尾寺に安居して参禅、俱舍、唯識を学ぶ。著書に『法服格正』『珍牛禅師』『仏祖衣法』などがあり、昭和十二年二月二十二日に七十八歳で示寂した。

せきもとーたいせん 関本大仙

―昭和十八年（一九四三）
三木市竜恩寺十八世、丹波市宗蓮寺七世。

号は法雲。本師は関本道林。昭和十八年四月十九日に示寂した。

せきりゅうーぶんどう 石龍文堂

ー昭和三十二年(一九五七)

仙台市峻林寺二十三世。号は玉鳳。本師は莊司泰應。昭和十三年十二月に永平寺単頭に就任し、十九年には東京麻布の長谷寺専門僧堂の後堂に就いた。戦後、自坊での参禅会に力を注いだ。三十二年七月八日に七十四歳で示寂した。

せやまーいっとう 瀬山一透

ー明治四十二年(一九〇九)

富山市巒昌寺二十二世、富山市無常庵開山。号は一透、字は祖關。富山市に生まれる。本師は觀山祖梁。明治四十二年四月七日に八十三歳で示寂した。

せんだーじつどう 仙田實道

明治十八年(二八八五)ー昭和四十五年

(二九七〇)

豊橋市満光寺二十四世、豊川市龍徳院八

世。号は大運。明治十八年十月四日に愛知県丹羽郡扶桑村の仙田常三郎の三男に生まれる。本師は前田大峰。明治四十五年七月に曹洞宗大学を卒業、大正二年(一九一三)四月から三年八月まで永平寺に安居する。三年より一年間、金沢市天徳院認可僧堂にて教育に従事。六年、曹洞宗宗務所管内布教師となり、十二年四月に愛知県第十曹洞宗務所管内布教部委員長、十三年一月より愛知県第十曹洞宗務所長、昭和十年(一九三五)九月より愛知県第四曹洞宗務所長、十五年五月に豊橋地区司法保護委員、十七年七月より二十年三月まで曹洞宗宗会議員を、その他、豊橋市仏教会副会長も務めている。四十五年七月十二日に満八十六歳で示寂した。(『満光寺誌』)

せんだーほぜん 仙田保禪

明治二十八年(二八九五)ー昭和五十四年(二九七九)

あま市直心寺十四世。号は鐵岳。明治二十八年四月十四日愛知県丹羽郡扶桑村の仙田常三郎の六男として生まれる。受業師、本師は葛谷泥牛。旧制愛知学院、三重県立師範学校本科第二部を卒業し、両本山並びに札幌市中央寺に安居する。熊野市木本中学教諭を三年間、七宝尋常高等小学校教諭を十七年間務め、小学校教頭、村社会教育委員長、郡視聴覚委員長となった。管内市教師も務めた。昭和五十四年十二月六日に八十四歳で示寂した。

ぜんとうーりょうかん 善塔良關

明治七年(一八七四)ー昭和二十年(一九四五)

龜岡市積善寺、豊中市東光院十世。号は一透。明治七年五月二十七日に大阪府三島郡見山村下音羽の原田林三郎の子として生まれた。俗姓を初め片岡といい、後に原田、明治十八年(一八八五)六月に善塔家の養子となる。受業師、本師は善塔一毛。明治十九年一月より二十五年八月まで永平寺に掛錫し、その間の二十二年十二月に大阪綜芸種智院本科に修学し、二十四年十二月には曹洞専門学校を修業、三十年九月三十日に大阪府師範学校講習科を修業した。大正

三年（一九一四）六月に大阪市北区中津の

旧地より現在の豊中市曾根に寺基を移し、

常恒会を開き、小本寺干与者削除期成同盟

会を首唱し、宗門の封建主義打破に尽力し

た。日華親善に努め、大谷光瑞と親交、孫

文の辛亥革命に頭山滿、宮崎稲天とともに

協力し、後に輩東自治政府の殷汝耕総統の

帰依を受ける。両本山を互敬、護持し、森

田悟由、新井石禪と親交を持った。高祖大

師六百五十回大遠忌には、紀州に永平寺の

植林事業として五十町歩の山林を購入寄進

した。昭和十六年（一九四一）三月より特

選曹洞宗宗会議員、五月に永平寺監院、曹

洞宗宗制特審議委員会、十七年七月より十

九年六月まで、大阪府曹洞宗宗務所長、十

七年九月に永平寺顧問に就任した。二十年

十月二十九日に七十一歳で示寂した。（林

春隆『偲び草』（昭和二十年）、「大阪時事

新報」（昭和十年十一月十五日記事）、「傘

松」五〇六号）

せんのうちゆうしよう 先納雄暲

明治二十四年（一八九二）―昭和四十三

年（一九六八）

豊後高田市金宗院、井原市法泉寺二十八

世。号は庠岳。明治二十四年十一月十三日

に広島県深安郡広瀬村の先納喜太郎の六男

に生まれる。受業師は水永全之、本師は谷

碩童。大正三年（一九一四）總持寺に安

居。昭和四十三年十月二十九日に七十七歳

で示寂した。

つ

つかだーとくほう 塚田得法

安政六年（一八五九）―昭和十七年（一

九四二）

佐久市大昌寺十八世、佐久市正安寺三十二

世。号は大成。安政六年五月七日に長野県

埴科郡坂城町に生まれる。受業師は山本千

榮、本師は長谷川得祐、明治二十四年（一

八九二）に七級試験了畢、大正九年（一九

二〇）四月より十三年三月まで長野県第六

宗務所長を務める。昭和十七年一月二十日

に示寂した。

つかはらーかくかい 塚原寛介

大正五年（一九一六）―平成十一年（一

九九九）

高岡市宗泉寺。大正五年一月五日に氷見市

北大町に生まれる。本師は塚原真禪。昭和

八年（一九三三）に永平寺に安居、富山県

宗務所長、富山県祖門会会長を務め、五十

六年六月に宗議会議員に初当選し、平成元

年（一九八九）六月より三年六月まで宗議

会副議長を務めた。十一年四月八日に八十

三歳で示寂した。（『曹洞宗現勢要覧』、「宗

報」七六四号、「傘松」六六八号）

つかもとーかくどう 塚本格道

明治十六年（一八八三）―昭和四十九年

（一九七四）

新潟県三島郡全久院、北海道古宇郡法輪寺

七世。号は玄量。明治十六年九月十六日に

新潟県北蒲原郡笹岡村に生まれる。本師は

桑山月窓。駒澤大学書記や宗務所会議員、

昭和六年（一九三一）には永平寺大遠忌、

十一年の總持寺大遠忌の北海道での各專使、寺院級階査定委員、七年には茅沼教会の設立認可、宗務所長事務取扱、宗務所長、永平寺大遠忌庶務副部長を務める。村学務委員、村選挙管理委員、民生委員、推選委員なども務めた。四十九年十月二十九日に九十二歳で示寂した。(『曹洞宗現勢要覽』)

つきおかーまんしゅう 月岡正舟

一 昭和八年(一九三三)

松浦市慈光寺三十八世、松浦市永光寺十八世、平戸市長泉寺二十世。号は道彦。昭和八年一月二十三日に示寂した。

つきぢーしゅんりゅう 築地俊竜

明治三十七年(一九〇四)一 昭和四十七

年(一九七二)

秋田県南秋田郡自性院二十九世。明治三十七年十一月七日に秋田県南秋田郡富津内馬川に生まれる。本師は築地竜明。立教大学経済学部を卒業し、発心寺僧堂に安居、宗務所主事、教区長、宗務所賛事、宗会議

員、永平寺参与を務め、町会議員、町助役、民生委員、PTA会長なども務めている。昭和四十七年十一月十三日に六十八歳で示寂した。

つくいーとくりん 出井得鱗

嘉永六年(一八五三)一 大正六年(一九

一七)

栃木県河内郡見性寺二十三世。号は龍童。嘉永六年三月二十三日に栃木県下都賀郡藤岡町藤岡の出井佐太郎の次男に生まれた。本師は大宗正海。大正六年七月四日に六十三歳で示寂した。

つぐながーけんりゅう 嗣永賢龍

天保五年(一八三四)一 大正四年(一九

一五)

東京都西照寺十七世。号は昇雲。天保五年に新潟県蒲原郡菱潟の高地家に生まれる。本師は祥山靈瑞。明治三十六、七年(一九〇三、四)の東京市改正道路計画の実施により、四十三年に桜田通りが着工された。その時、白金台町にあった西照寺が現在地

に移転することとなり、大八車で墓石や多くの古材などを運び移築した。白金時代に明治学院の教師であった島崎藤村が寄宿している。大正四年十二月二十日に八十二歳で示寂した。(『西照寺過去帳』、『西照寺小史』)

つぐながーほうしょう 嗣永芳照

昭和十一年(一九三六)一 平成十一年

(一九九九)

東京都西照寺二十世。号は昇龍。昭和十一年一月三十日に東京都杉並区の嗣永芳雄の長男に生まれる。受業師、本師は嗣永芳雄。昭和三十八年(一九六三)に早稲田大学大学院文学研究科を卒業。宮内庁書陵部図書課に勤務し、主任研究官などを歴任し、両大本山の禪師号申請の助言、世話役を務めた。早稲田大学文学部及び大学院講師、昭和女子大学文学部の講師も務めた。著作には『図説宮中行事』『京都御所』などがある。平成十一年十一月二十四日に享年六十四歳で示寂した。(『傘松』六七六号)

つぐながーほうゆう 嗣永芳雄

明治三十年(一八九七)ー昭和五十六年
(一九八二)

東京都西照寺十九世、東京都福寿院二十七世。号は昇山。明治三十年五月三十日に、東京都港区の嗣永賢龍の三男に生まれる。受業師は嗣永賢龍、本師は嗣永龍雄。大正元年(一九一二)に日本大学宗教科を卒業し永平寺に安居する。教区長、布教委員、宗務所所長、教護委員、区仏教連合会理事、方面委員長、社会事業協会支部長、司法保護委員、仏連会長、民生委員、東京都西部身体障害者福祉協会理事、児童福祉協会理事などを務めた。昭和五十六年十月八日に八十四歳で示寂した。

つじーえつじゅん 辻悦淳

明治二十一年(一八八八)ー昭和三十一年
(一九五六)

伊達市興国寺二十六世。号は温嶽。明治二十一年二月十二日に三重県志摩郡鳥羽町に生まれる。本師は嶽尾泰忍。大正十三年(一九二四)慶應大学文学部を卒業した。

明治四十四年(一九一一)に伊達市徳本寺

に首先住職した。大正七年には布哇駐在布教師補、昭和九年(一九三四)十月には興国寺に住職して十年三月より十八年八月まで興国寺専門僧堂堂長を務めた。管内布教師、二十四年(一九四九)七月に宗会議員、参事会員となり、二十六年一月には伊達市仙林寺を兼務した。大遠忌奉讃社会教化運動本部参与も務めており、宗外では福島県立福島中学校教諭、岩手県立一関中学校教諭、岩手県立福岡中学校長、岩手県立遠野中学校長などを務めた。昭和三十二年五月六日に六十八歳で示寂した。

つじーぎんりゅう 辻吟龍

舞鶴市善通寺五世、舞鶴市東林寺三世。号は丹海。本師は亀飼慧鏡。明治二十一年(二八八八)に善通寺に晋山以来、寺門興隆に尽して二十二年春に江湖会を修行した。(「明教新誌」第二四五四号)

つだーげんどう 津田源道

ー明治三十二年(一八九九)

田辺市法性寺十六世、和歌山県東牟婁郡高松寺。号は良悟。本師は梵外良中。明治三十二年七月一日に高松寺にて示寂した。

つちだーぜんおう 土田禪翁

慶應三年(一八六七)ー昭和十八年(一九四三)

新発田市養福寺、五泉市萬福寺、号は雲外。慶応三年十月十二日に新潟県北蒲原郡新発田町の土田清七の二男として生まれる。受業師は小菅梅翁、本師は出雲碧峰。明治十七年(一八八四)、北蒲原郡専門支校に入り学科七級を卒業する、二十年三月に出雲碧峰の室に入り嗣法、二十一年に萬福寺へ住職し、二十三年に永平寺で転衣、三十六年の夏初会結制を修行する。三十九年には師席を継ぐ。二十九年には支局會議員に当選し、県下教学の振興及び檀家の化導に尽力した。昭和十八年十一月八日に七十六歳で示寂した。(「曹洞宗名鑑」)

つちばしーかいおん 土橋海音

明治十四年(一八八二)ー昭和二十七年

(一九五二)

沓崎市太平寺、沓崎市長栄寺十八世、沓崎市華光寺二十九世。号は覚法。明治十四年一月二十四日に佐賀県杵島郡江北村の土橋栄四郎の四男に生まれる。受業師は青木真亮。本師は市山暎亮。明治三十九年(一九〇六)に曹洞宗大学を卒業し、四十一年より四十三年まで曹洞宗大学副寮監を務めた。沓岐を代表する宗侶で、寺門興隆に努め村青年会や郡内各宗協和会に関係した。昭和二十七年九月九日に七十四歳で示寂している。(『曹洞宗名鑑』)

つついーかくみよう 筒井覚明

明治三十九年(一九〇六)ー平成十四年

(二〇〇二)

北杜市長清寺、宮津市智源寺四十世。号は泰雲。明治三十九年十二月十日に徳島市国府町字栄町に生まれる。受業師、本師は今成覚禪。昭和七年(一九三二)三月に駒澤大学文学部仏教学科を卒業し、四月より十

二年三月まで小浜市発心寺専門僧堂に安居

した。その間の一ケ年、岐阜県伊深村の臨濟宗正眼寺僧堂にも掛錫している。十六年

二月八日に總持寺へ特別安居した。十二年

十一月七日に長清寺に住職し、四十年四月

十九日に宮津市智源寺住職となった。二十

二年六月に總持寺の単頭に就いており、準

師家に任命されている。二十六年七月十七

日には總持寺祖院後堂に、三十五年三月十

九日には總持寺祖院監院に命ぜられ、四十

七年十一月一日には總持寺後堂に、五十年

十一月には總持寺顧問に就いた。五十五年

二月十八日には智源寺専門僧堂の師家に就

き、六十年十月二十八日には師家養成所講

師を委嘱された。智源寺の坐禅堂改修や位

牌堂、山門(赤門)、妙光台などの新築造

営事業を行っており、平成十四年九月五日

に九十七歳で示寂した。(『洞門龍象要覽』)

つつがわーほうがい 筒川方外

弘化四年(一八四七)ー明治三十七年

(一九〇四)

倉吉市吉祥院、養父市宗恩寺十五世、伊豆

市修善寺。号は超然。弘化四年に江州彦根

の土族の子として生まれた。受業師、本師

は逸山仙秀。鳥取市の景福寺で修行し、明

治十年(一八七七)に吉祥院住職となる。

その後、宗恩寺に転住し、池田草庵のもと

で朱子学を学ぶ。二十二年二月二十五日、

曹洞宗大学林教頭を務め、宗門子弟教育に

あたった。三十三年に修善寺に転住し、三

十四年には宗議会特選議員に任命された。

三十七年五月二十八日に五十八歳で示寂し

た。(『洞上高僧月旦』『但馬の禅僧』)

つづくーれいげん 都竹靈源

ー昭和二年(一九二七)

高山市正宗寺十四世、高山市善久寺十七

世。号は鷲峰。岐阜県大野郡丹生川村坊方

の都竹又太郎の次男に生まれる。受業師、

本師は牧友玩牛。明治中期に永平寺の森田

悟由を請して、高山市神明町の正雲寺を建

立した陰の功勞者である。正宗寺の伽藍新

築を弟子の原田靈昌と二代で完成させた。

当時の永平寺法堂の施餓鬼柵を寄進してい

る。昭和二年十一月二十八日に示寂した。

〔正宗寺過去帳〕

つの一えじょう 都野恵定

弘化元年(一八四四)―大正三年(一九

一四)

大田市城福寺十五世、江津市普濟寺十七世。号は禪林。島根県那賀郡井野村の川本氏の出身で、後に開基家の都野姓に改める。本師は雷如黙笑。大正三年十一月二十三日に七十歳で示寂した。

つのだーしゅうどう 角田宗道

大正十三年(一九二四)―平成十五年(二〇〇三)

伊那市常輪寺二十世、伊那市常円寺二十七世。号は佛山。大正十三年三月二十二日に長野県上伊那郡辰野町北大出の角田賢道の次男に生まれる。受業師、本師は角田賢道。昭和二十二年(一九四七)九月に駒澤大学仏教学科を卒業し、沢木興道や山田霊林に参随した。總持寺布教師、特派布教師、管区布教師、長野県第二宗務所長、北信越管区長、總持寺授戒会引請師などを務

め、保護師、民事調停委員にも任命された。寺誌の「常円寺」を発行し、『伊那谷の仏事歳時記』『鎮魂の手記』を著わした。平成十五年一月十八日に八十歳で示寂した。

つばいーしゅんげん 坪井俊彦

明治二十二年(一八八九)―昭和三十三年(一九五八)

鴨川市神宮寺、神奈川県足柄下郡英潮院二十一世。号は啓迪。明治二十二年十二月三日に名古屋市に生まれる。受業師、本師は坪井千尋。大正六年(一九一七)七月一日に曹洞宗大学大学院本科を卒業し、六年九月十四日より七年七月十五日まで永平寺に安居した。十五年三月八日に司法省より東京少年審判所少年保護司事務を嘱託され、昭和四年(一九二九)十一月一日に神奈川県知事より社会委員を任命された。四年十一月三十日に曹洞宗布教師に任命され、四年三月一日に司法保護委員に嘱託され、九月十四日には司法保護委員に任命された。十五年四月十日に神奈川県教会講師

に嘱託され、十六年一月十五日には神奈川県より方面委員、十七年七月二十七日には少年保護司として多年にわたって尽した功により奏任官の待遇となった。二十一年六月十五日に少年保護司として多年の功により、従七位に叙せられる。三十二年一月二十八日に六十八歳で示寂した。

つばいーせつてい 坪井雪庭

明治元年(一八六八)―大正十三年(一九二四)

奈良市三松寺十世、奈良県吉野郡普門寺二十三世、奈良県吉野郡滝川寺三十七世。号は得髓。明治元年十一月十日に岐阜県揖斐郡揖斐町脛永の坪井重吉、母ビデヨの三男として生まれる。受業師、本師は朝生天栄。渡辺實雄や日置黙仙、上田祥山などに随侍する。十八年に三丹聯合専門支校に入り学課四級を修め、さらに、奈良県支校に転学して全科を卒業する。二十年九月には三松寺に首先任職し、二十二年十月に永平寺で転衣し、二十三年十一月には普門寺へ転じ、大正三年(一九一四)には、滝川寺

に昇住した。奈良三八聯隊に毎月布教に行き、下北山村大瀬分教場の教師を務めていたとの話もある。明治四十五年（一九一〇）一月に、単身で北朝鮮に渡り、朝鮮人及び居留民等に布教の途次、第八師団長小泉中将、五十二聯隊長加藤大佐に邂逅し、軍隊布教の依頼を受けて十ヶ月間、その布教に従事した。大正四年一月には軍人布教師に任命されている。十三年五月二十四日に滝川寺で五十七歳で示寂した。（『曹洞宗名鑑』）

つばいーふまい 坪井不昧

明治十六年（一八八三）ー昭和三十五年（一九六〇）

千葉県香取郡福泉寺、八戸市光龍寺、前橋市源英寺十九世、桐生市鳳仙寺三十三世。号は百丈。明治十六年六月七日に名古屋市下日置町の坪井健栄の二男に生まれる。受業師は西有穆山、本師は石川未逢。三十年五月から三十三年二月まで島田市の天徳寺に安居、三十四年三月から四十二年二月まで總持寺に安居する。宗務所弁務、宗務所

明治期以降曹洞宗人物誌（一六）

布教委員、教育興隆会勸募委員、教区長、宗務所長（二回）、曹洞宗青年会聯盟顧問、永平寺二祖禪師大遠忌寄附勸募委員、同督励員、總持寺後醍醐天皇御遠忌香資勸募委員長、總持寺副監院を務めた。宗外においては司法保護事業団体摂法会保護主任、前橋積善会理事、県仏教連合会常務理事、方面委員、前橋各宗協会長、同司法保護主任、県社会教育委員、県仏教会理事長、県選挙粛正実行委員、前橋保護観察審査予備委員、司法保護委員、各種調停委員、県仏教会会長、県仏教会保護会理事長、大日本宗教報国会県支部副支部長、県社会教育協会理事、保護司などを務めた。昭和三十五年八月三日に示寂している。（『曹洞宗現勢要覧』）

つぼくらーかいてん 坪倉回天

明治九年（一八七六）ー大正十五年（一九二六）

柳井市良照寺十七世。号は麗泉。明治九年七月六日に山口県熊毛郡田布施町松尾の坪倉家に生まれる。受業師は松垣良天、本師

は野坂篤應。地方中学林を経て三十六年に東京哲学館を卒業。三十七年に教導講習院を卒業する。三十一年より山口中学林教師を務め、両本山布教師も務めた。大正五年四月二日に広島県呉市で示寂した。（『曹洞宗名鑑』）

つるおかーがくほう 敦岡学鳳

明治二十五年（一八九二）ー昭和三十五年（一九六〇）

高島市覚伝寺三十世、長野市長国寺三十七世。号は乾外。明治二十五年一月二日に石川県羽咋郡西富来町酒見に生まれる。受業師、本師は久我絶学。大正十年（一九二一）七月に曹洞宗大学林を卒業し、十二年に第三宗務所布教部委員長、十三年には總持寺祖院講師、典座となる。昭和七年（一九三二）に總持寺典座に就いて以来、副寺、副監院となり、二十年間在住して二十六年六月に送行した。その後、国東市の泉福寺の常在師家となり、岐阜県不破郡の妙応寺師家も兼職した。その後、長野市の長国寺に昇住し地方寺院の復興にも尽くし

た。三十五年八月一日に六十九歳で示叙した。(「跳龍」第三三九号)

つるおかーはくほう 敦岡白鳳

大正六年(一九一七)ー平成七年(一九九五)

高島市梅長院、相模原市功雲寺三十七世、相模原市増珠寺。号は雲外。大正六年十月二十六日に石川県鳳至郡門前町の池田家に生まれる。受業師、本師は敦岡学鳳。昭和二十二年(一九四七)四月に津久井郡仏教会長並びに神奈川県仏教会理事に就任し、二十三年十一月に白字会書道会を設立した。二十四年五月に津久井町選挙管理委員、十一月に司法保護委員に就任する。三十年二月には神奈川県宗教教誨師に任命され、三十三年四月に津久井町議会議員に当選し、地域開発などで町政に寄与した。四十年三月に總持寺二祖国師六百回大遠忌副都管に、七月には曹洞宗布教師、四十四年八月には總持寺副監院に、四十七年二月に太祖常済大師六百五十回大遠忌法要部長を拝命される。五十三年五月には神奈川県宗

教教誨師理事に、同年十一月には神奈川第二宗務所長を拝命される。五十七年十一月には法式声明研修のための「白雲会」を設立し指導に当たり、各地現職研修会などにおいても指導に当たった。平成七年三月十八日に七十七歳で示叙した。

つるたーけいどう 鶴田岡道

慶応二年(一八六六)ー昭和二年(一九二七)

十日町市相国寺十八世、本庄市光福寺二十四世。号は至山。慶応二年十一月十三日に新潟県長岡市に生まれる。受業師は明鏡觀明。本師は松林禅山。南木国定に随侍する。明治二十六年(一八九三)曹洞宗大学林を卒業し、三十二年には永平寺出張所知客補となり、三月に曹洞宗務院書記、三十五年には高祖大師六百五十回遠忌録事を任命される。昭和二年九月四日に六十三歳で示叙した。(「相国寺過去帳世代記」『曹洞宗名鑑』)

つるなりーたくえい 鶴成澤英

明治十一年(一八七八)ー昭和二十五年(一九五〇)

宇佐市地藏院十六世、杵築市浄土寺十三世、杵築市東光寺十三世。号は俊機。他に嵐雪とも号す。明治十一年六月十四日に大分県速見郡山香町に生まれる。受業師、本師は鶴成祐法。永平寺に安居し、両本山巡回布教師を務めた。昭和二十五年二月二十六日に七十二歳で示叙した。

つるはらーけんぼう 鶴原憲鳳

大正十三年(一九二四)ー平成六年(一九九四)

北海道樺戸郡北漸寺六世。号は鐵貫。大正十三年二月五日に北海道樺戸郡月形町に生まれる。本師は松本玉鳳。駒澤大学予科を修了し、特殊布教師教誨師、月形刑務所教誨師、北海道第二宗務所長、北海道管区長、全国宗務所長会副会長を務めた。平成六年二月十日に七十一歳で示叙した。(「傘松」六〇六号)

つるはらーどうは 鶴原道波

天保三年(一八三二)ー明治二十七年

(二九〇四)

出雲市延命寺十一世、出雲市常福寺十四世、北海道樺戸郡北漸寺二世。北海道樺戸郡大正寺開山。号は鐵船。天保三年一月十一日に島根県神門郡大津町の鶴原源助の長男に生まれる。受業師、本師は天瑞来道。

弘化二年(一八四五)春より大垣市全昌寺の鴻雪爪に八年間参学した。明治初年に島根県宗務副取締に就任したが、宗門制度についての争論があり、私見が宗制違反になつて懲戒をうけた。常福寺在任時には産業振興を目的として出資している。明治二十七年一月七日に示寂した。(自筆「履歴書」『開道北海道宗教教誨小史』)

つるみーみつぜん 鶴見密禪

明治三十六年(一九〇三)ー昭和五十一年(一九七六)

浜松市普濟寺独住九世。号は大用。明治三十六年一月二十一日に愛知県海部郡大治村に生まれる。本師は福山白麟。高野山大学

を卒業し妙嚴寺認可僧堂に安居する。静岡

県第四宗務所長、浜松市仏教会副会長、都市区劃整理委員、浜松刑務支所教誨師、少年保護司、市積善会理事、市仏教養護院理事などを務めた。昭和五十一年一月十一日に七十二歳で示寂した。(「傘松」三九〇号)

も

もがみーえいき 最上顚璣

天保十二年(一八四一)ー大正元年(一九一二)

山形市光禪寺二十五世、山形市大昌院十五世、山形県東村山郡慶松寺十九世。号は道晁。天保十二年十二月十七日に山形県東村山郡山辺町大字大塚の會田弥右エ門の五男に生まれる。初め會田と称したが、後に最上と改姓した。受業師は道智顚山、本師は道合玄乘。明治維新の際、当寺朱印地二万五十石の内、畑地九反九畝二十七歩、田地

一町八反三畝六歩の不動産を無償下げさ

れ、寺門護持の基盤を作った。明治二十七年(一八九四)五月二十六日の山形市南の大火により本堂を始め建物を全焼したが、大正二年(一九一三)十月に本堂が再建された。しかし、前年に亡くなったが、本寺の向川寺より再中興の免牘を授与された。元年九月二十五日に七十二歳で示寂した。(『光禪寺誌』)

もぎーむもん 茂木無文

明治十二年(一八七九)ー昭和二十年(一九四五)

東松山市曹源寺、埼玉県比企郡松月寺二十四世、熊谷市観清寺二十三世。号は朴翁。明治十二年一月二十九日に埼玉県北埼玉郡高柳村に生まれる。受業師、本師は鈴木無三。明治三十年(一八九七)七月に曹洞宗大学を卒業し、内地留學生に選抜されて英文学を専攻した。三十五年七月に永平寺で轉衣し、三十六年八月に曹源寺へ初住した。三十八年四月に松月寺に転住するとともに曹洞宗大学図書係にも任命され、後に

曹洞宗第一中宗林学監を務めた。昭和二十一年一月三十一日に示寂する。(『曹洞宗名鑑』)

もくのーこううん 李野耕雲

明治四年(一八七二)ー昭和四年(一九

二九)

豊橋市玄超院、蒲郡市全保寺、蒲郡市本光寺三十一世、蒲郡市洞源院十二世、蒲郡市天桂院二十六世。号は法山。明治四年八月十五日に愛知県宝飯郡前芝村の李野岩松の三男として生まれる。受業師、本師は江坂法雲。明治二十一年(一八八八)九月には石川県曹洞宗専門支校へ入学、冬、金沢市浄住寺の長谷川天穎について立身、二十四年五月より豊川市妙嚴寺の福山黙堂に随侍し、傍ら柳沼翁に漢学を学び、小林翁に漢詩を学び、秋元良観や木谷魯宗らに宗乗の提唱を受ける。三十年七月に豊橋市下五井町の玄超院に首先住職し、三十五年六月には蒲郡市の全保寺に転住し、四十一年五月に天桂院に進住した。毎月一回自坊において説教会を催し、その他に少年教会を設立

し、日曜ごとに少年を集めて教授訓話をなし、在郷軍人会、青年団などにおいて、小学教師と提携して修養講話を行った。また、組長となり、組寺の宗務及び布教に活躍した。昭和四年九月二十日に示寂している。(『曹洞宗名鑑』)

もちだーえくん 持田慧訓

明治三十四年(一九〇二)ー昭和四十四年(一九六九)

三田市心月院二十四世。号は閑堂。明治三十四年十二月九日に島根県八束郡宍道町伊志見四一〇に生まれる。本師は衛藤即應。大正十五年(一九二六)四月に駒澤大学予科入学、昭和六年(一九三一)三月に文学部仏教科を卒業。四月より十七年三月まで神戸市の般若林専門僧堂に安居して常任講師を務め、宗乗、余乗、論理学、哲学などを担任した。十年四月より二十年三月まで満福寺禅林講師、二十七年には神戸市東灘区御影町上ノ山一六八二に甲南禅道場を建立し、在家信者のために禅道会、禅話会、禅学会、参禅会を開催した。著書に『座禅

の要諦』『般若心経は何を解くか』『禅の概説』『無字の参究』『般若心経要解』などがある。昭和四十四年十二月十一日に六十八歳で示寂した。

もちづぎーぎあん 望月義庵

明治四年(一八七二)ー昭和二十八年

(一九五三)

熊本市報恩寺十六世、熊本市大慈寺九十三世。号は桂臺。明治四年一月二十五日に熊本県阿蘇郡長陽村に生まれた。受業師、本師は本田義昌。明治二十九年(一八九六)に熊本鎮西中宗林を卒業し、三十四年に曹洞宗大学林を卒業した。永平寺、總持寺に安居した後、三十六年十二月より三十七年七月まで曹洞宗大学林学監に就任、昭和九年(一九三四)には曹洞宗特選議員に就き、十二年には曹洞宗軍人布教師に、十六年には熊本県宗務所長に就任した。十八年九月二十日に大慈寺で晋山祝国開堂を挙げ、この時、曹洞宗教化研究委員を委嘱される。また、曹洞宗戦力増強教化錬成動員特派教師にも就任する。俳人種田山頭火

(耕畝)は、師のもとで出家得度している。二十八年六月三十日に八十三歳で示寂した。(『曹洞宗名鑑』『現代仏教家人名辞典』『傘松』四五八号)

もはらーずいどう 茂原瑞堂

ー明治三十年(一八九七)

京都市慈眼寺十一世。号は祥雲。越前に生まれる。青少年の指導に尽力し、門前の子弟を集めて多くの人材の輩出に務めた。その中から国務大臣を始め立派な人物が輩出した。明治三十年十一月五日に示寂した。

ももせーろちゆう 百瀬魯忠

ー

鶴岡市永寂寺、鶴岡市東源寺、鶴岡市荒川寺、酒田市總光寺五十六世。号は大道。山形県東田川郡八色木新屋敷に生まれ、鶴岡市林泉寺の弟子となり、十八歳で雲水となり諸国を巡って修行した。明治十九年(一八八六)に總光寺の特選住職となり、一山の経営に専念し、特に總光寺開山以来の寺領五十余歩の山林が明治以来官山となった

ため、再び山林を寺有にもどすことに苦心し、ついに官林払下に成功した。町の財政の復興も考え、寺有林、町有林をおよそ四分六分の割合に分割し、それぞれの所有によつて後世の財政の基礎を確立した。(『洞瀧山總光寺史』)

ものいーえんずい 桃井圓瑞

天保三年(一八三二)ー明治三十八年

(二九〇五)

群馬県吾妻郡宗福寺十八世、高崎市常仙寺十五世、渋川市龍伝寺二十四世。号は秀光。本師は寛傳虎勇。常仙寺の記録には龍伝寺二十四世とあるが、二十四世は別人である。しかし龍伝寺に住持していたことは事実である。明治三十八年十二月十一日に七十三歳で示寂した。

もりーかくみよう 森覚明

明治三年(一八七〇)ー昭和二十八年

(二九五三)

福知山市昌宝寺、福知山市長円寺、丹波市瑞雲寺、福知山市久昌寺二十四世、綾部市

玄功寺開山。号は大晃。明治三年七月九日に京都府綾部市豊里中の中村政五郎の三男に生まれる。受業師、本師は森大応。興聖寺の不二門眉相、瑞泉寺の杉本道山らに参随した。明治十八年(一八八五)より桂林寺に安居、二十年九月に京都府第二専門支校を卒業し、二十一年九月より二十三年七月まで興聖寺に安居した。二十三年九月より二十六年七月まで瑞泉寺に安居。三十一年に東洋大学を卒業し、その後、三十三年まで二松学舎にて漢学を専攻し、三十七年より三十八年まで、教導講習院にて学ぶ。

四十一年九月から四十四年七月まで永平寺に安居した。明治三十二年四月、京都府第三号支局下巡廻布教師、四十四年から昭和十三年まで兵庫県及び京都府宗務所管内布教師、明治四十年より北海道特派布教師、四十二年、愛知県吉祥講布教師、四十三年永平寺副単頭、兵庫県第六曹洞宗宗務所長、大正九年五月より昭和十二年まで軍人布教師、昭和四年満州守備隊慰問布教師を務めた。大正十三年、宗会議員を拝命、十四年京都府天田郡仏教団長を二期務める。

また、宗務院参事会員、宗務院会計審査員、十五年には曹洞宗教法調査員、昭和十二年には福知山市仏教団長を務めた。宗外においては昭和五年に京都府方面委員、十三年には福知山市軍事援護相談所の相談委員を務めた。昭和二十八年七月二十五日に八十五歳で示寂した。〔曹洞宗名鑑〕

もりーけんぜん 森顯禪

弘化元年(一八四四)ー昭和八年(一九

三三)

和歌山県西牟婁郡三宝寺十六世、田辺市法輪寺二十五世、田辺市法性寺十三世、田辺市水泉寺開山。号は天外。弘化元年八月十五日に因幡国高草郡吉岡村の花谷新十郎の次男に生まれる。受業師は顯外、本師は二葉洞外。明治十三年(一八八〇)曹洞宗専門支校に入学し、十六年に内務省より権少講義を拝命、十九年十月に専門本校学課初級より三級までの試験を修了した。二十七年十一月より四十一年十一月まで和歌山県教導取締兼同県総教会議長に就き、二十九年より三十一年まで曹洞宗末派総代議員を

務めており、三十二年には和歌山県曹洞宗布教師となる。なお、二十八年五月より法輪寺の本堂再建に着手し、二十九年五月に落成式を修行した。三十九年夏、能登国の總持寺が横浜鶴見へ移転につき、咨問会で総代議員として上京する。大正三年七月に老衰のため法輪寺住職を辞し隠栖した。昭和八年三月十九日に九十歳で示寂した。〔明教新誌〕第六一二号、第八一一号、第三七六三号)

もりーじつゆう 森実雄

明治二十一年(一八八八)ー昭和四十七

年(一九七二)

津市西法寺十世。号は大機、雅号を六水という。明治二十一年十二月五日に金沢市の柿本家に生まれる。受業師、本師は朝日雄峰。大正元年に曹洞宗第三中学校林を卒業し、約四十年間、地元の小中学校教員を務め、西法寺の本堂を改築し再建した。三重県第一宗務所副所長を務め、昭和四十七年三月五日に八十四歳で示寂した。

もりーせいがん 森省頑

明治四年(一八七二)ー昭和十七年(一

九四二)

東京都圓福寺二十二世。号は實道。明治四年三月四日に岐阜県中島郡小藪村の森源十郎の二男に生まれる。本師は森海巖。曹洞宗大学を卒業後、同大学の僚監を務め、曹洞宗地方布教師や方面委員、西台青年団団長なども務めた。昭和十七年六月二十一日に七十二歳で示寂した。〔現代仏教家人名辞典〕

もりーだいき 森大器

明治三十年(一八九七)ー昭和三十五年

(一九六〇)

所沢市松林寺十五世、山梨県南巨摩郡南明寺四十九世、坂戸市宗福寺二十五世。号は徳充。明治三十年七月三十一日に福井県武生市の森丹秀の長男として生まれる。受業師は田中佛心、本師は平鳳瑞。大正十二年(一九二三)に駒澤大学仏教科を卒業。宗福寺時代に宗会議員に二選され、昭和十六年(一九四一)には教学部長を務めた。二

十九年四月一日に南明寺を永平寺特任地となした。その他に管内布教師、軍人布教師、教育審議会委員、審事院審事、司法保護委員、保護司、埼玉県仏教会主事、埼玉自彊会において司法保護事業に従事する。

全日本仏教会連絡部長、十八年七月に日本仏教親善使節随員として泰国に渡り、仏舍利を奉迎した。十九年より二十年まで日泰文化会館仏教部長に就任し、両国の文化交流親善事業に従事した。著書に『曹洞宗安心問題論纂』『曹洞宗在家日課諷経集』などがあり、三十五年一月七日に六十二歳で示寂した。(『曹洞宗現勢要覧』「傘松」二六八号)

もりーたつどう 森達堂

明治十一年(一八七八)ー昭和二十七年(一九五二)

市原市西福寺、新城市慈広寺三十一世、鳥羽市光岳寺二十一世。号は奥参。明治十一年一月一日に三重県桑名郡城南村大字安永に生まれる。受業師、本師は武田金牛。戸沢春堂に参随している。明治三十一年(一

八九八)に第七中学林を卒業し、四十二年四月より昭和三年(一九二八)三月まで新城市泉龍院僧堂に安居する。曹洞宗三重県宗務所所長も務めた。二十七年六月四日に七十五歳で示寂している。

もりーつりょう 森哲了

明治四十三年(一九一〇)ー昭和四十四年(一九六九)

綾部市玄功寺二世、福知山市久昌寺二十五世。号は寛山。明治四十三年五月五日に森覚明の長男として生まれる。受業師は森覚明、本師は渡辺賢明。駒澤大学文学部国文学科を卒業し、修善寺僧堂、總持寺僧堂に安居する。福知山市仏教会長、民生委員、管内布教師を務めた。昭和四十四年六月二十五日に六十歳で示寂した。

もりーとうおう 森洞翁

明治十七年(一八八四)ー昭和二十三年(一九四八)

高島市清原寺五世、大津市桂昌寺八世、高島市興聖寺三十世。号は壽山。明治十七年

一月二十日に滋賀県米原町米原の森留次郎の四男に生まれる。受業師は鶴翁台巖、本師は幽蘭千巖。西有穆山に参随している。

明治二十九年(一八九六)に盛岡市の報恩寺に、三十二年より三十五年まで横濱市西有寺に安居。大正六年(一九一七)夏安居、引続き報恩授戒会を修行。昭和八年五月より二年間、滋賀県曹洞宗第二宗務所長を務める。昭和二十三年九月十五日に六十四歳で示寂した。

もりーどうほん 森道本

明治三年(一八七〇)ー昭和十年(一九三五)

富山市西光寺三世、茨城県猿島郡東昌寺四十世。号は森羅。明治三年十二月十八日に石川県門前町峠に生まれる。受業師は實嚴真宗、本師は寂菴瑞光。慶応大学経済学部を卒業。明治四十年(一九〇七)より大正十五年(一九二六)まで宗議会公選議員に就き、總持寺本山再建部長も務めた。また、總持寺東京出張所にも出仕している。昭和十年十月二十一日に六十六歳で示寂し

た。『現代仏教家人名辞典』『宗教時報』
第一二一号)

もりーどうゆう 森道雄

大正三年(一九一四)ー平成四年(一九

九二)

茨城県猿島郡東昌寺四十二世。号は虎山。
大正三年六月二十六日に茨城県猿島郡五霞
村の森道本の長男に生まれる。受業師は森
道本、本師は赤祖父順雷。昭和十三年(一
九三八)に駒澤大学仏教学部予科を卒業。

總持寺祖院に安居し、二十一年に東昌寺住
職となる。五十年から六十二年まで五霞村
議会議員を務め、五十六年から六十年まで
五霞村議会教育民生委員長を務める。ま
た、五十年から五十八年まで栗橋町外五箇
市町村水防事務組合議会議員を務め、六十
二年から平成元年まで曹洞宗宗議会議員も
務めた。その他、茨城県曹洞宗宗務所賛
事、副所長にも就いている。平成四年七月
八日に七十八歳で示寂した。〔『洞門龍象要
覧』『曹洞宗現勢要覧』〕

もりーぶんえい 森文英

明治三十年(一八九七)ー昭和五十二年

(一九七七)

愛知県知多郡誓海寺六世、半田市海蔵寺十
九世。号は大哲。明治三十年二月二十日に
東京都文京区小日向台町の森清巖の七男に
生まれる。受業師、本師は石川文龍。曹洞
宗大学を卒業し、愛知県第三宗務所長や宗
議会議員を務める。その他、乙川本郷軍人
分会長、半田市市会議員、半田市選挙管理
委員も務めた。昭和五十二年二月五日に八
十歳で示寂した。〔『洞門龍象要覧』〕

もりーいぶつかん 森井仏閑

文久三年(一八六三)ー昭和十年(一九

三五)

藤井寺市清円寺二十四世、池田市吉祥寺十
世、箕面市太春寺。号は大通。文久三年四
月二十日に攝津豊能郡萱野村に生まれた。
受業師、本師は森井泰翁。森田悟由、畔上
椋仙、北山純三などに参随する。明治二十
二年(一八九九)に曹洞宗大学を卒業し、
三十六年には準師家となり、陽松庵僧堂の

雲衲を接化した。昭和十年九月十五日に示
寂した。〔『曹洞宗名鑑』〕

もりえーりようじゅん 森江良屯

ー昭和五十年(一九七五)

防府市天徳寺二十七世、庄原市正福寺十二
世。号は大詰。広島県庄原市高町の森江定
一の子に生まれる。受業師、本師は今井良
光。大正七年に曹洞宗大学林を卒業し、昭
和五十年七月十八日に八十四歳で示寂し
た。

もりかわーちはく 森川智白

ー大正十五年(一九二六)

小浜市松福寺十七世、福井県大飯郡海元寺
二十九世、福井県大飯郡性山寺五世、小浜
市空印寺三十六世、福井県大飯郡慈眼寺伝
法開山。号は東林。本師は禅外東隆。曹洞
宗地方布教部委員長を務めている。大正十
五年十一月二十六日に示寂した。〔『松福寺
過去帳』『現代仏教家人名辞典』〕

もりぐちーえてつ 森口恵徹

安政四年(一八五七)ー昭和十二年(一九三七)

大田市浄光寺二十世、大田市龍昌寺二十九世、鳥羽市常安寺三十世。号は大悟。安政四年七月十日に鳥根県那賀郡川波村字波子の森口順孝の五男に生まれる。受業師、本師は宮脇月船、能仁柏巖や橋本玄了に参学する。満州布教師となり、大連に常安寺を創建した。満州布教監督を兼任し、永平寺顧問も務めた。昭和十二年十二月二十八日に八十一歳で示寂した。(『現代仏教家人名辞典』『龍昌寺過去帳』『森口恵徹老師』)

もりしたーりゅうどう 森下隆道

明治二十七年(一八九四)ー昭和五十年(一九七五)

埼玉県比企郡宗心寺二十四世、静岡市金剛寺十世。号は佛天。明治二十七年二月二十日に岩手県遠野市上郷町の細越儀三郎の三男に生まれる。初め藤平といい、後に隆道と改名する。受業師は篠田大誠、本師は丹羽佛庵。秋野孝道と福山白麟に参随してい

明治期以降曹洞宗人物誌(一六)

る。明治四十年(一九〇七)三月、岩手県立遠野中学校を卒業し、大正二年(一九一三)から五年まで大洞院に安居、七年から九年まで妙巖寺に安居した。昭和二十六年(一九五一)に曹洞宗布教委員、曹洞宗青少年教化委員、宗外においては静岡市御用邸公会堂事務局長を務めるなど、十九年に静岡市政功労者として名誉市民賞を授与された。五十年一月二十五日に八十一歳で示寂した。

もりたーげんえい 森田彦英

明治四十三年(一九一〇)ー平成元年(一九八九)

千葉県満蔵寺十九世。号は大機。明治四十三年八月十九日に東京都西多摩郡日の出村に生まれる。本師は松本突英。昭和十年(一九三五)に駒澤大学仏教学部を卒業し、十年より十一年まで永平寺に安居。三十五年四月より曹洞宗保育連合会常任理事、三十九年四月より千葉県仏教保育連合会会長、四十一年四月より曹洞宗宗議会議員を三期十二年間務める。その間に、曹洞

宗宗務監査委員、曹洞宗社会教育審議会委員、曹洞宗視學員、曹洞宗総合特別審議会委員、曹洞宗教学部長などを務めた。また、保護司も務め、四十四年に千葉県知事教育功労で表彰された。駒澤大学理事長、東北福祉大学理事長、愛知学院大学理事長も務めている。平成元年二月四日に八十歳で示寂した。(『曹洞宗現勢要覧』「大機彦英大和尚小照」)

もりたーこうえつ 森田宏悦

大正二年(一九一三)ー平成九年(一九九七)

伊勢崎市宝珠寺三十世、ハワイ・オアフ島洞門院二世、ハワイ・モロカイ島弘誓寺四世、太田市正覚寺二十二世。号は禅山。大正二年十月二十三日に群馬県佐波郡赤堀村今井の松村以一の四男に生まれ、後に森田姓に改める。受業師、本師は松村以一。昭和十二年(一九三七)三月に駒澤大学仏教学部を卒業し、九月より十四年七月まで永平寺に安居した。七月二十七日にハワイ・ホノルル別院開教師として赴任し、十五年八

月にオアフ島のワイアホレ洞門院に転任した。二十年ワイアホレ日本語学校校長、二十六年、モロカイ島の弘誓寺四世に赴任、ハワイ開教師として五十八年間務め、平成九年七月二十五日に八十三歳で示寂した。(『洞門龍象要覽』)

もりたーごゆう 森田悟由

天保五年(一八三六)―大正四年(一九一五)

金沢市龍徳寺二十五世、金沢市玉竜寺、金沢市天徳院二十五世、永平寺六十四世。号は大休、別号は六湛。天保五年一月一日に尾張国知多郡大谷村の森田常吉の二男に生まれる。受業師は龍山泰門、本師は天瑞白龍。弘化四年(一八四七)夏より伊勢国飯高郡殿村の大福寺の月定愛光に二年間参侍し、安政元年(一八五四)には梅檀林に入り、碩学の東条一堂らに就いて内外諸典を研鑽した。三年正月、前橋の龍海院の奕堂に参随し、天徳院に転住した際にも随侍して天徳院に赴いた。慶応三年(一八六七)十月、龍徳寺に首先住職し、明治三年(一

八七〇)には、奕堂が總持寺独住一世に昇

住するや常随侍者となる。八年四月二日には天徳院に転住、十一年には總持寺西堂となり、二十一年二月には法式改正委員長に任ぜられ『洞上行持軌範』を編輯した。二十四年九月十二日に永平寺六十四世へ晋住し、二十八年一月より曹洞宗管長に就任した。それ以後、總持寺貫首と一年交代で管長職を務める。この頃、總持寺と永平寺の分離問題があつたが、分離せずに円満解決した。二十八年五月、明治天皇より性海慈船禪師号を賜わり、三十五年四月十八日より道元禪師六百五十回大遠忌を永平寺で行した。著書は『獅乳』『洞上化導要義』『禪戒法話』『禪戒落草談』『仏戒略義』『悟由禪師法話集』『大休悟由禪師広録』などがあり、大正四年二月九日に八十二歳で示寂した。(『洞上高僧月旦』『各宗高僧譚』『森田悟由禪師』『曹洞宗百年のあゆみ』『禅学大辞典』)

もりたーしんかい 森田眞海

明治十八年(一八八五)―昭和三十七年

(一九六二)

湯沢市最禪寺三十一世、佐倉市養昌寺十七世、千葉県長生郡大聖院、成田市養泉寺二十八世。号は道悟。明治十八年八月二十七日に千葉県市原郡鶴舞町鶴舞に生まれる。受業師、本師は松本道海、高橋竹迷に参随した。明治三十五年(一九〇二)より三十八年まで福島県の長禄寺認可僧堂、三十八年より四十年まで永平寺、四十二年より四十三年まで及び大正三年(一九一四)から十三年まで總持寺に安居した。總持寺再建本部主事、總持寺慶弔式録事、秋田県第二宗務所長、曹洞宗布教師を始め曹洞宗事変対処局参務、曹洞宗報国会指導講師、僧侶勤労働員適格者修練会講師、特派布教師、曹洞宗振興会講師も務めた。宗外においては少年教護委員、成人保護司、山田公民館運営審議員なども務めた。昭和三十七年七月十九日に七十八歳で示寂した。(『曹洞宗現勢要覽』『最禪寺誌』)

もりたーゆうこう 盛田有孝

大正十年(一九二二)―平成四年(一九

九二

勢要覽

川越市千壽院、古河市正麟寺二十七世。号は義嶽。大正十年一月一日に生まれる。受

業師、本師は盛田孝岳。昭和十六年（一九

四一）三月十日に茨城師範専攻科を卒業。

安政五年（一八五八）―大正十二年（一

三十五年）に曹洞宗宗務庁主事、四十年に曹

九二三

洞宗宗務庁課長、六十一年三月に曹洞宗審

横浜市本覚寺二十三世、呉市神應院開山。

事院審事を拝命し、三期六年間務めた。平

号は大雲。安政五年四月八日に鹿児島県比

成四年六月八日に七十一歳で示寂した。

婆郡西城町に生まれる。本師は木下大統。

〔『曹洞宗現勢要覽』「宗報」第六八二号）

明治十九年（一八八六）に曹洞宗大学林を

もりたりようどう 盛田良道

卒業。二十年五月には本覚寺に任職して四

明治二十九年（一八九六）―昭和五十七

十五年に認可僧堂を開単し、師家として雲

年（一九八二）

衲を接化した。行持綿密にして祖道恢興を

東京都中央寺二十二世。号は大悟。明治二

以って一生の任とし、寺門興隆と僧堂経営

十九年三月二十九日に熊本県天草郡御領村

に尽した。大正十二年一月十八日に示寂し

に生まれる。早稲田大学専門部政治経済科

た。〔『曹洞宗名鑑』

を卒業し、昭和十八年には東京宗務所第九

もりやまーげんちよう 森山玄昶

教区長に、二十二年には管内布教師、その

明治七年（一八七四）―昭和十九年（一

後、東京都梅花流連合会長や城東仏教団常

九四四

任理事などを務めている。中央寺の本堂増

出雲市大円寺、出雲市福知寺、出雲市靈光

改築を行い、五十七年六月八日に八十六歳

寺、出雲市十楽寺二十五世。号は痴閑。明

で示寂した。〔『洞門龍象要覽』『曹洞宗現

治七年四月二十五日に島根県簸川郡国富村

の森山文重の四男に生まれる。受業師、本

師は痴絶清祀。井上円了に参学する。明治

二十九年（一八九六）七月十五日に東京哲

学館を卒業し、三十年に大円寺へ首先住職

した。三十一年には福知寺の本堂を建立、

元瑞。大正七年五月十六日に示寂する。

『那賀郡曹洞宗寺門史』

もりよしーりょうしゅう 守慶良宗

ー明治三十二年(一八九九)

川越市養寿院二十四世。号は祖田(伝)。

明治十八年(一八八五)八月二十五日より

開基川越太郎平重、平経重の六百回忌にあたり、畔上棟仙を戒師に請して戒会を開く。三十二年二月二十六日に示寂した。

〔明教新誌〕第一九一四号『仏教各宗高僧品評』『畔上棟仙禪師遺稿』

もろたけーえぎどう 諸嶽奕堂

文化二年(一八〇五)ー明治十二年(一

八七九)

京都市大宅寺、前橋市龍海院、金沢市天徳院二十四世、豊明市聖応寺十五世、總持寺独住第一世。号は梅崖、三界無頼、無似子。文化二年一月一日に名古屋市の平野甚右衛門の三男に生まれる。受業師、本師は雪堂暁林。證応道契や天外来応などに随侍し参禅した。天保九年(一八三八)には三

河足助の香積寺の風外本高の下で修行する

こと四年にして印可を受けた。その後、京

都の大悲山に隠れ、原坦山らとともに坐禪

辨道し、弘化四年(一八四七)に大宅寺

(現在、廃寺)の住持となり、嘉永二年

(二八四九)に前橋の竜海院に、安政四年

(二八五七)に金沢の天徳院へ昇住した。

明治初期の永平寺と總持寺の抗争で両山盟約の締結に力をつくし、明治三年(一八七〇)に總持寺独住第一世に就き弘濟慈徳禪師を賜号される。著書に「玄楼禪師略伝」

「風外禪師略伝」「良寛和尚詩集」「懶眠餘稿」などがあり、十二年八月二十四日に鶴岡市の善宝寺に巡化した時、七十五歳で示寂した。『各宗高僧譚』『曹洞宗百年のあゆみ』『禅学大辞典』

もんまーてんゆう 門間天祐

ー昭和十年(一九三五)

横手市永泉寺三十世、秋田県雄勝郡光正寺、秋田県仙北郡永泉寺二十七世。号は佛心。光正寺より永泉寺の特選住職になる。昭和十年五月十五日に示寂した。

昭和十年五月十五日に示寂した。

昭和十年五月十五日に示寂した。

昭和十年五月十五日に示寂した。

昭和十年五月十五日に示寂した。